

## 令和8年度 介護人材スキルアップ研修年間スケジュール

対象	No	日程	時間	会場	定員	研修テーマ	内容	講師
主任介護支援専門員	1	6月8日(月)	13:30~15:30	セ亀有地区 三軒タ区 会議室	30	「最近、隣に座っているケアマネジャーが悩んでいる様子…。」 ～あなた自身に心理的安全性があればNO問題！～	ケアマネジャーが何か報告してきたとき、アイデアを出したとき、改善点を出したときに、必ず主任ケアマネジャーが肯定的に受け入れてくれる事がわかっていれば、ケアマネジャーの発言が増えます。主任ケアマネジャーであるあなたに心理的安全性があれば「どうせ言っても」が「ちょっと聞いてください」に変わります。	一般社団法人 心理的安全性アンバサダー協会 代表理事 横内 浩樹 氏
	2	7月23日(木)	13:30~15:30	ZOOMライブ		「へえ～そんなやり方もあるんだ」 ～介護記録の質を上げる(短く・伝わる・役立つ)～	事務仕事は社会保険業務とは切っても切り離せません。その中で重要になる事が「目的の設定」「書き方のフォーマット」「音声入力」を連動・活用する事です。丁寧に書く事も大切な事ですが、事務仕事の目的・達成目標はどこでしょうか？今回はそこについて考えたいと思います。	居宅介護支援事業所けあまねさん 管理者 高野 忍 氏 (主任介護支援専門員)
	3	8月12日(水)	13:30~15:30	ZOOMライブ		こんな風になるなんて想像すらしていなかった。 “ホスピタリティ”がつかなく事業所運営	平成28年に一人ケアマネ事業所としてスタートしてから、現在ではケアマネ11名、事務職3名、特定事業所加算Ⅰ、医療介護連携加算を算定できるまでに成長してきた単独型居宅介護支援事業所の実践事例を紹介。成長してきた根底には、多くのケアマネジャーが疲弊する利益追求第一主義ではなく、ホスピタリティの追及があります。	株式会社トライドマネジメント 代表取締役 単独型居宅介護支援事業所トライドケア マネジメント運営 長谷川 徹 氏 (主任介護支援専門員)
介護支援専門員	1	8月5日(水)	13:30~15:30	セ亀有地区 ホール	30	「家族支援で困ったときの対処法」 ～ケアマネジャーのための実践講座～	家族支援は、ケアマネジャーの専門性が最も問われる場面の一つです。思いのすれ違い、感情の衝突、過度な期待、支援拒否……。 「どう対応すればいいのかわからない」そんな瞬間は、誰にでもあります。最初はだれもが不安です。本講座では、現場で本当に起こる事例をもとに、明日から使える具体的な対処法と、関係性をこじらせない関わり方を学びます。困ったときに「立て直せる」ケアマネへ。実践力を磨く時間です。	茨城キリスト教大学 生活科学部 心理福祉学科 茨城キリスト教大学大学院 生活科学研究科 心理学専攻 准教授 山川 誠司 氏
	2	9月3日(木)	13:30~15:30	ZOOMライブ		「利用者に頼まれたらやってあげたくなるシャドーワーク！」 ～他の職員に怒られたけど、やっちゃダメなの？～	「これくらいなら…」と、ついやってしまう。でも後から「それダメ」と言われてモヤモヤ。本当に大事なものは、“やる・やらない”ではなく関係を壊さない断り方。本研修ではシャドーワークの線引き、組織リスクの整理、すぐ使える“うまい断り方”を具体的に学びます。 優しさを失わずに、きちんと断れる。明日から使える実践研修です。	おかげさま社会保険労務士法人 代表 社会保険労務士 主任介護支援専門員 社会福祉士 山本 武尊 氏
	3	10月13日(火)	13:30~15:30	ZOOMライブ		「ご家族は？」その問いに、答えられない人がいる ～身寄りなしケース、現場で本当に困るあの場面～	介護現場の仕事で、よく耳にする質問があります。「ご家族はいらっしゃいますか？」身寄りのない利用者に出会ったとき、本人の希望、医療・介護の調整、社会資源の活用…現場では判断に迫られる場面が次々に現れます。身寄りなしケースで直面する“困った場面”を具体的にに取り上げ、対応のポイントや支援のコツを学びます。	身寄りなし問題研究会 代表 看護師、救命救急士、社会福祉士、主任 介護支援専門員、 新潟着物男子部部长 須貝 秀昭 氏

## 令和8年度 介護人材スキルアップ研修年間スケジュール

対象	No	日程	時間	会場	定員	研修テーマ	内容	講師
全 職 員	1	5月22日(金)	13:30~15:30	ウイメンズ 視聴覚室	30	認知症サポート医が教える 「昨日まで普通だったのに、今日は別人？」 ～それ、せん妄かもしれません～	高齢者に非常に多いにも拘わらず、せん妄は認知症と区別がつきにくく、原因や対応が分からないまま現場で対応しているケースが多い状況があります。その結果、事故につながる・不適切ケアが起きる・家族対応が難しくなる・医療連携が遅れるといった課題が生じています。せん妄の特徴と早期発見のポイントを理解し、適切な初期対応と医療連携によって事故や不適切ケアを防ぎましょう。	鈴木医院 神経内科医師 木原 幹洋 氏
	2	6月5日(金)	13:30~15:30	ウイメンズ 視聴覚室		「なんとなく提供」から脱却する栄養アセスメント」 ～食欲低下・時短・金銭制約・疾患別対応を踏まえた実践的食事支援～ 一訪問栄養相談の活用も添えて一	食欲が落ちている。残食が増えている。でも時間も人手も限られている。そして、献立のネタ切れ…。その食事、本当に“評価”できていますか？本研修では、・低栄養リスクの見抜き方・食欲低下時の具体的対応・限られた予算・時間内での栄養確保・疾患別(糖尿病・腎疾患・心不全など)の押さえるべき栄養ポイント・現場で使える簡易栄養アセスメント視点を整理します。“作る・出す”から“評価して調整する”食事提供へ。明日から現場で使える実践的な視点を持ち帰っていただきます。	Kery栄養パーク 代表 管理栄養士 稲山 未来 氏
	3	7月8日(水)	13:30~15:30	ウイメンズ 視聴覚室		認知症サポート医が教える 「認知症の人の“伝わらない・伝えられない”を理解する」 ～認知症の方のコミュニケーションの裏側を読み解く～	認知症の方とのコミュニケーションでは、「説明しても伝わらない」「急に怒られた」「話がかみ合わない」といった場面が多く、介護職が“性格”や“わがまま”と受け取ってしまうケースが少なくありません。しかし、実際には言葉が出ない・理解できない・状況判断が難しいといった“脳の変化による症状”であり、医学的に理解する事で誤解や不適切ケアを大きく減らす事ができます。認知症の人の伝達困難を医学で読み解きます。	鈴木医院 神経内科医師 木原 幹洋 氏
	4	8月～9月頃		動画 配信		可能性を最大限に！ 後輩のやる気を引き出すマイ先生のコーチング	コーチングとは、相手の中にある答えや可能性を引き出し、自発的な行動や成長を促すコミュニケーション手法です。指示やアドバイスを与える「教える」スタイルとは異なり、問いかけ(質問)や傾聴(よく聴く)を通じて、相手が自ら考え、行動できるようにサポートします。職員にも自立支援です！	マイコーチングオフィス 代表 中村 舞 氏
	5	10月19日(月)	13:30~15:30	ウイメンズ 視聴覚室		「床ずれ」とは、よく言ったもので。 ～職員の善意の介護がつくる褥瘡～	在宅でも施設でも、最も身近な二次障害のひとつが褥瘡です。昔から「床ずれ」と呼ばれ、よく知られているはずのものです。しかし、実際には「ちゃんとやっているのにできてしまう」「予防しているつもりなのに防げていない」そんな現場の声も少なくありません。それは努力が足りないからではなく、“思い込み”や“古い知識”が残っている可能性があります。専門職の常識が現場では非常識になっている事もあるため、この機会に情報のアップデートをしませんか？がんばりを、結果に繋げるために。	アップライド株式会社 トランスファーサポートチーム ノーリフトケアコーディネーター シーティングエンジニア 栗原 俊介 氏

## 令和8年度 介護人材スキルアップ研修年間スケジュール

対象	No	日程	時間	会場	定員	研修テーマ	内容	講師
全 職 員	6	11月6日(金)	13:30~15:30	セ 亀 有 地 区 ホ ー ル	30	認知症サポート医が教える 「事故報告書を書く前に、知っておきたいこと」 ～認知症の人の転倒を防ぐ医学的アプローチ～	認知症の方の転倒は、介護現場で最も多く、最も負担の大きい事故のひとつです。発見すると辞めたくなくなっちゃいます。しかし、現場ではなぜ転ぶのか、どこに気をつければよいのか・医療に相談すべきタイミングが分からないまま対応しているケースが多く、事故の再発や不適切ケアに繋がる事があります。認知症の方が転倒しやすい医学的理由を理解し、前兆の早期発見・適切な予防策・医療連携の判断力を高めましょう。	鈴木医院 神経内科医師 木原 幹洋 氏
	7	12月18日(金)	13:30~15:30	セ 亀 有 地 区 ホ ー ル		“わからない”のは、実は私たち？」 ～パーソンセンタードケアで考える認知症～	認知症の方の行動に、「どうして？」と戸惑う事は少なくありません。でも、その“わからない行動”は、実は私たちの見方が追いついていないだけかもしれません。パーソンセンタードケアの視点から、認知症の人の気持ちや背景を読み解き、関わり方が少し楽になるヒントを探ります。	全国コミュニティライフ サポートセンター(CLC) 日本メンタルヘルス協会 寺田 真理子 氏
	8	1月12日(火)	13:30~15:30	セ 亀 有 地 区 ホ ー ル		「利用者が“言いたい事”を飲み込んでいませんか？」 ～“遠慮文化”をやさしく壊す方法～	「利用者が“言いたい事”を飲み込んでいませんか？」 本当は気になっている。でも、「これくらい…」と遠慮してしまふ。そして、職員が忙しそうだと沈黙をする。その沈黙、事業所の“文化”かもしれません。本研修では、“遠慮文化”をやさしくほぐし、利用者が自然に本音を話せる職場づくりを実践的に探ります。“言っても大丈夫”が当たり前になると、クレームが減り、事故が減少します。	一般社団法人 心理的安全性アンバサダー協会 代表理事 横内 浩樹 氏
	9	2月10日(水)	13:30~15:30	セ 亀 有 地 区 ホ ー ル		「つい言っちゃう、ついやっちゃう。」 ～高齢者虐待防止のリアル～	高齢者虐待は、特別な人が起こすものではありません。忙しさ、焦り、思い込み。そして“つい”。気づかないうちに積み重なる小さなズレが、いつの間にか尊厳を削っていくことがあります。この研修では、現場の「あるある」を振り返り、「これって大丈夫？」と一緒に考えます。守るべきは、命だけではなく、その人らしく生きる“尊厳”です。	十文字学園女子大学 副学長 今井 伸 氏
	10	3月頃		動 画 配 信		知らないで損する令和9年度介護報酬改定。 ～“なんとなく対応”から戦略的対応～	令和9年度介護報酬改定は、単なる点数の増減ではありません。制度のメッセージを読み違えれば収益構造は崩れ、読み解ければ経営の武器になります。本研修では、改定の背景・政策意図・評価軸を整理し、「どの加算をどう取りに行くのか」「何を捨て、何を強化するのか」経営判断に直結する視点を具体的に解説します。改定後に慌てるのではなく、改定前に設計する。そのための実践講座です。	小濱介護経営事務所 代表 一般社団法人 ケア・ダイバーシティ・ラボ 代表理事 小濱 道博 氏